

2020 年度実施概要

教育委員会名

与論町教育委員会

採択活動名

「ユンヌの海から世界へ」

取り組みの概要

1. 推進協議会等の実施状況

協議会名：与論町海洋教育推進協議会

構成：与論町教育委員会担当者，各学校長・海洋教育担当者，与論町B & G海洋センター担当者，ヨロンSC（NPO団体）担当者，海謝美（うんじゃみ）（地域清掃活動団体）担当者，誇れるふるさとネットワーク（NPO団体）担当者，海の再生ネットワークよろん（NPO団体）担当者，ヨロン島観光協会担当者，与論町商工観光課・環境課担当者，与論町地域おこし協力隊，与論町漁業協同組合担当者，シマノマ（NPO団体）担当者，まなび島（学習塾）経営者，子育て支援団体（あんまーず）代表者

開催状況： 5月26日 令和2年度第1回総会・連絡会
 6月 地域サポーターリーダー会
 9月 地域サポーター座談会（日程を4日設定の上少人数で実施）
 10月 9日 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任研究員梶川先生，田口先生を交えた担当者会（事務局）
 11月18日 令和2年度第2回総会・連絡会（書面連絡に変更）
 3月 4日 令和2年度役員会

2. 特例校の申請状況

科目名：海洋教育科

学校名：茶花小学校（令和2年度～）

申請内容：小・中・高連携の推進，郷土の良さの実感，課題設定力や課題追究力，プレゼンテーション力の伸長等を目標に，与論島の大きな特色である「海」を通じた学びを中心とした「海洋教育科」を設置した。

「海洋教育科」では，島内外の方々を講師として招聘し，地域連携，環境，経済，情報発信など様々な視点で学習を行う。児童・生徒の興味・関心によって活動を柔軟に変化させることで，児童・生徒の試行錯誤の時間を十分に確保する。また，島内外の他者に向けて，学びの結果を発信する機会を設定することで，学びと表現が一体となった探究的な単元構成を特徴としている。3年生は総合23時間，4年生は総合44時間，5年生は体育10時間及び総合51時間，6年生は体育11時間及び総合54時間を減じて「海洋教育科」を新設した。

今後：町内小学校2校，中学校1校

①小学校（2校）

令和2年度末→令和3年度の「総合的な学習の時間」の内容の見直し

※令和3年度は，「総合的な学習の時間」を軸として海洋教育の時数を可能な限り増やす

令和 3 年度 8 月→特例校申請書提出予定

※令和 3 年度に増やした海洋教育の時数を母体として、令和 4 年度の「海洋教育科（案）」を申請予定

②中学校（1 校）

令和 2 年度末→令和 3 年度の「総合的な学習の時間」の内容の見直し

※現行の海洋教育の内容を、三つの小学校との系統性を踏まえながら見直す

令和 3 年度 8 月→特例校申請書提出予定

3. 発表会・授業研究会・教員研修会等の実施状況

①第 1 回ヨロン海洋教育フェア

実施日：令和 3 年 1 月 29 日

会 場：メイン会場 茶花小学校 体育館
 サブ会場 A 与論中学校 1 年生各教室
 サブ会場 B 与論高等学校 パソコン室
 サブ会場 C 東京大学海洋教育センター

※メイン会場とサブ会場はオンラインで接続する。

参加者：与論小学校 5 年生

茶花小学校 6 年生

那間小学校 5 年生

与論中学校 1 年生

与論高等学校 1 年生， 2 年生

地域サポーター，与論町教育長，海洋教育部会会長・顧問，与論ライオンズクラブ代表保護者，その他の地域住民

目的：

- (1) 町内の小・中・高等学校が海洋教育の学習成果を共有することで、児童生徒の個々の学びを深める機会とする。
- (2) 与論島の未来について児童生徒と地域の大人が語り合い、学び合うことで、海洋教育の地域展開を推進する。

内容：

- | | |
|-------------------|---|
| 14：10 ～ 14：15（5） | 開会式
・開会のあいさつ（教育長）
・コンテストの説明 |
| 14：15 ～ 15：05（50） | 発表Ⅰ（茶花小学校）
※来賓及び地域サポーターによる投票 |
| 15：05 ～ 15：10（5） | 休 憩 |
| 15：10 ～ 15：20（10） | 「よろん夢語り the MOVIE 1st」の視聴
※与論 S C のアナウンス含む |
| 15：20 ～ 15：40（20） | 発表Ⅱ（与論高等学校）
※エキシビション形式 |

15:40 ~ 15:50 (10) 閉会式



② 与論町教育研究会「海洋教育部会」

実施日：年間4回（詳細は「内容」参照）

参加者：茶花小学校 山下 孝一郎 校長（海洋教育部会顧問）
 与論小学校 西村 翼 教諭（海洋教育部会部員）
 茶花小学校 吉井 雅彦 教諭（海洋教育部会部長）
 那間小学校 齊藤 裕作 教諭（海洋教育部会部員）
 与論中学校 西田 広一 教諭（海洋教育部会部員）
 与論高校 高橋 智亮 教諭（海洋教育部会部員）
 与論町教委 兒玉 拓世 指導主事

目的：与論町内の海洋教育について縦横の連携を図りながら、町ぐるみのカリキュラム・マネジメントを推進する。

内容：〔第1回 令和2年6月12日〕

- ・ 与論町の海洋教育について
- ・ 情報交換「各学校における海洋教育」
- ・ 茶花小の「海洋教育科」について
- ・ 意見交換「海洋教育に関する今後の取組について」

〔第2回 令和2年9月18日〕

- ・ 「5校合同学習発表会（後の『ヨロン海洋教育フェア』）」の日程及び内容について
- ・ 今後の予算執行について
- ・ その他（「特例校申請について」「年度末の提出物について」等）

〔第3回 令和2年11月18日〕

- ・ 「第1回ヨロン海洋教育フェア」について
- ・ 令和3年度以降の計画について
- ・ 令和3年度教育課程編成に関して
- ・ その他（「全国海洋教育サミットについて」「年度末提出物について」等）

〔第4回 令和2年6月12日〕

- ・ 「第1回ヨロン海洋教育フェア」について
- ・ 令和3年度教育課程編成に関して
- ・ その他（「海洋教育こどもサミット 2021in おおむた」「予算執行状況調べ」等）

③地域座談会

実施日：令和2年9月10, 14, 15, 18日

※新型コロナウイルス感染対策の為日程を分け少人数で実施

当初7月に計画していたが、島内でコロナ陽性者発生で9月に延期し実施

参加者：地域サポーター15名，海洋教育推進協議会事務局

※参加メンバーは、主に30代・40代に依頼、参加者の活躍分野は、教育・観光・環境・文化・農業・漁業などの分野が偏らないように依頼

目的：我が町教育の「現状」と「未来の理想」について、参加者の率直な声を出し合う。

内容：

(1) 事務局より説明：与論町海洋教育について

海洋教育概要／活動実績と計画／町全体で取り組む必要性／座談会の必要性

(2) 全員参加ワークショップ：地域が考える与論町の教育の魅力とは？

1. チェックイン (チーム内)

緊張をほぐし、意見しやすい雰囲気作りのために、おひとり一言15秒程で、「今週嬉しかった出来事について」共有しましょ。

2. 「今」を見よう！

GOOD&BAD をポストイットに書き出し、グループ内で共有

参考資料) 与論町教育行政要覧 R2 版&H20 版

3. 「未来」を描こう！

こうなったら良いな！をポストイットに書き出し、グループ内で共有

4. チェックアウト (チーム内)

今日の感想 (各自)



座談会ワークショップの様子



ワークショップ資料

地域サポーターの意見総括：

GOOD/BAD/未来に向けて必要なことの3点で意見を出した結果、GOODは抽象的な意見が多く伝統・自然環境・安全的環境、地域の教育への関わり、学校教育の指導力の高さ、生涯活動の充実度、子どもが持ち合わせている資質気質についてがあげられた。BADは具体的な改善点があげられた。特に危機感が強く、重要度が高い意見としては、子どもたちが夢を描くに必要な職種・仕事の情報や体験・経験が足りない点、心の悩みを抱えている子どもの多さ、大人のあり方についてがでた。未来に向けては、自己肯定感を養う教育、表現力・思考力・創造力を身につける教育、体験を増やすキャリア教育への要望が上がった。

4. 外部機関との連携

地域サポーターによる海洋教育授業用提案書作成・実施

11 団体, 49 提案書 (令和 3 年 3 月 5 日時点)

地域サポーターによる海洋教育授業用提案書

地域サポーターによる海洋教育授業用提案書

5. 情報発信 (HP, SNS 活用)

目的：与論町海洋教育の目的や取組内容を発信し、地域・家庭に周知する

・与論町教育委員会 HP



与論町教育委員会 HP



Newsletter 第 12 号

・与論町海洋教育推進協議会公式Instagram



与論町海洋教育推進協議会公式Instagram

活動参加校名

1. 与論町立与論小学校
2. 与論町立茶花小学校
3. 与論町立那間小学校
4. 与論町立与論中学校
5. 鹿児島県立与論校高等学校